

「教育、研究、地域貢献」



福井工業高等専門学校
地域連携テクノセンター長

松 井 栄 樹

最近、本校のこれまでの地域連携活動について講演を依頼されるご縁があり、テクノセンターだけでなく、本校について、また高専制度を知っていただく良い機会だと思い、承った。本校の地域連携活動について調べてみると、特に平成16年の独立行政法人化を境に積極的に丹南地区自治体、商工会議所・商工会、伝統産業、地場産業との連携が図られ、現在まで続いてきている。例えば、小学生から大学生までを対象に、マグネットに関するアイデアを募集するマグネットコンテストについては、多大な協力を継続的にいただくことで今年度第29回目を数え、本校と福井県内の産官学関係者との結びつきを深める技術交流会であるJOINTフォーラムも、コロナ禍で開催が危ぶまれた時期もあったが24回目を異業種交流会と共に開催する予定である。また、福井県和紙工業協同組合の水質試験についても、技術職員の方の継続的な活動により19年目となる。改めて歴史の重みと地域との繋がりを感じる次第である。

これまで、工業高等専門学校の三本柱として「教育、研究、地域貢献」があると聞かされ、私もそのつもりで活動をしてきたのであるが、色々と調べてみると三本目の柱は、場合により「キャリア支援」や「国際交流」だったり、また「地域貢献」は研究成果が基になることが多いことを考えると、確固たる二本に比べて少し心許なく感じる。

また、地域貢献には企業や自治体、公設試、学校関係者との雰囲気作りや関係性の構築という側面も有るが、実際に貢献できているかどうか数値として現れることも少なく、担当者自身の感覚や経験が頼りである。テクノセンターとしては実際に活動をしている本校担当者と情報交換した上で業務を任せ、必要な支援については惜しみなくするという方針で皆様との連携を充実させていきたいと思っている。

先日読んだ本に「仕事というのは、あぜ道の草を抜いたり、まだ荒れているところを耕したり、すぐにはお金にならないことをやること」という話があった。テクノセンターでは、昨今の厳しい状況の中、企業の皆様からいただいた寄付金も活用して、大型の分析・評価装置を維持管理し、知的財産、産学連携、研究推進に関する専門知識を有するリサーチアドミニストレーターを配置して技術的な支援を行うなどして、本校の教育研究環境の整備、充実を目指している。また、本校の教員、技術職員がそれぞれの専門分野を生かして7つの研究部門に所属し、地域の皆様から寄せられる技術相談や共同研究、連携事業を行う協力体制を整えている。

地域の皆様と積極的に技術交流、情報交換をしていくテクノセンターの活動は、本校や地域の未来にも繋がっていく大切な仕事だと自身に言い聞かせ、今日も活動を続ける。